

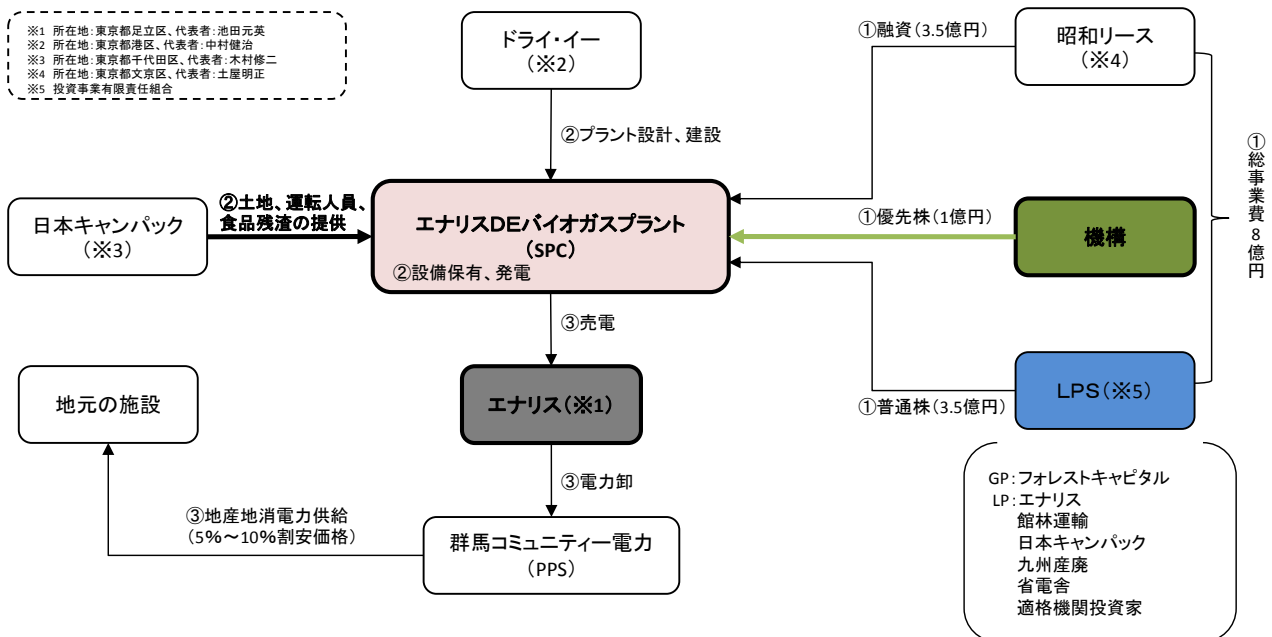
バイオガス発電プロジェクト事業への出資決定について

一般社団法人グリーンファイナンス推進機構（代表理事：末吉竹二郎、以下機構）は、独立系エネルギー事業者である株式会社エナリスの計画するバイオガス発電プロジェクトに1億円の出資を決定致しましたのでお知らせします。

本事業は、食品工場の食品残渣を原料としてバイオガス発電を行うものです。これは安定供給が見込まれる食品工場内の食品廃棄物の処理に当たってこれまでの焼却処理から CO2 排出抑制効果を持つバイオガス発電をすることで、全国にある食品残渣処理問題の解決を達成しつつ、バイオガス発電分野の普及を進める点において、1つの事業モデルとなり得ると考えられます。

具体的には、プラント保有と発電を行うエナリス DE バイオガスプラント株式会社（所在地：東京都足立区、代表取締役：久保好孝、以下 SPC）が、大手飲料メーカーの受託製造会社である株式会社日本キャンパックの群馬工場内にプラントを設置することで、原料の安定供給を確保しています。更に、株式会社エナリスが電力需給管理する群馬コミュニティー電力株式会社を通じて、地元の施設へ割安価格で電力供給し地域の資源循環を構築する点で、地域活性化に資することが期待されます。

1. スキーム概要



(説明)

- ① 本プロジェクト SPC に、エナリスが最大出資者となりその子会社フォレストキャピタルが GP となり組成する LPS が、350 百万円、機構が 100 百万円、昭和リースが 350 百万円を提供します（融資はプロジェクトファイナンスを予定）。
- ② SPC は上記資金を利用し、ドライ・イーにプラント設計・建設を委託し、完成したプラント（出力 420kW）を保有します。また、日本キャンパック群馬工場から、土地、運転人員、原材料（食品残渣等）の供給を受け、バイオガス発電を行います。

- ③ 電力は固定価格買取制度によりエナリスに販売され、同社が電力需給管理する群馬コミュニティー電力を通じて、群馬県地元施設へ電力を供給します。

2. 出資意義

機構は、主に以下の点を評価し、本件への出資を決定致しました。

- ① 従前化石燃料により焼却及び外部委託処理されてきた食品廃棄物を原料としたバイオガス発電を行うことにより、二酸化炭素の排出の抑制・削減に寄与すること（本事業による CO2 削減効果は 1,156t・CO2/年を想定しています）。
- ② 本件スキームにより地域の資源循環を構築しており、地元施設に対し従来より割安価格での電力販売を行うことや、地元企業に出資参画機会を提供することで、地域活性化に資すること。
- ③ バイオガス発電分野において、原料の安定供給等の課題を解決する 1 つのモデルとなり得ること。

お問い合わせ先

一般社団法人グリーンファイナンス推進機構 事業部

電話：03-6435-8700（代）ホームページ：<http://greenfinance.jp/index.html>
